

小山市における住民意識からみた農家民泊事業導入の可能性

Residents' Attitude Toward Introduction of Farmhouse Accommodations in Oyama City

鈴木 富之¹・蓬澤 栞²

SUZUKI Tomiyuki, YOMOGISAWA Shiori

本稿の目的は、小山市の住民（渡良瀬遊水地第2調節池に隣接する生井地区の住民、養蚕農家、本場結城紬の生産者）を対象として、農家民泊事業導入に関する住民意識を分析し、その差異が生じた要因を明らかにした上で、小山市における農家民泊事業導入の可能性を考察することである。生井地区には、宿泊客の受け入れに積極的な農家が含まれており、こうした農家が農家民泊事業のリーダー的な存在になることにより、円滑に農家民泊事業の導入を図れる可能性がある。養蚕農家は、カイコが伝染病や寄生虫病、タバコや農薬などの中毒症に弱いため、外部者が常時出入りすることに不安を抱えており、宿泊客の受け入れが進展しにくいと考えられる。同様に、本場結城紬はすべて手作業で作られているため、その生産者は本業との両立、体力や食事の準備などに不安を抱えており、宿泊客の受け入れが困難であると推測される。一方で、生井地区の住民は農業体験や渡良瀬遊水地の自然学習など個性的な体験プログラムを、養蚕農家と本場結城紬の生産者はそれぞれの産業に関わる学習観光の体験プログラムを提供できる可能性がある。

キーワード：農村観光、グリーン・ツーリズム、農家民泊、住民意識、小山市

I. はじめに

1. 研究目的

1990年代以降、日本では、大量輸送や画一的な観光開発の進展などにより旅行者が特定の観光地域に集中する「マス・ツーリズム Mass Tourism」から、旅行者の趣味や嗜好を強く反映した「オルタナティブ・ツーリズム Alternative Tourism」への移行がみられている（呉羽 2011）。すなわち、日本人の観光形態は、名所見物を中心とした周遊型観光から、体験や交流をテーマとした滞在型観光へと変化しつつある（米浪 2008：8-11）。なかでも、農家民泊事業は、有名な観光資源が立地していない地域においても導入されており、農家宿泊体験や、農業体験や自然のアクティビティなどの体験プログラムが提供されている。

農家民泊事業を導入している地域では、窓口となる運営組織が存在し、スタッフが農家宿泊体験や体験プログラムの予約業務、農家への分宿の依頼などを行うケースがみられる（加藤ほか 2015；柳ほか 2015）。例えば、沖縄県伊江村では伊江島観光協会が、大宜味村では NPO 法人おおぎみま

¹ 宇都宮大学地域デザイン科学部講師 t.suzuki@cc.utsunomiya-u.ac.jp

² 株式会社 JTB 関東法人営業小山支店

るとツーリズムが、栃木県大田原市では大田原ツーリズムがその役割を果たしている。一方で、こうした運営組織は、農家民泊事業を導入する際に、地域内の農家を訪問したり、説明会を開いたりすることにより、受け入れ農家を募るケースがみられる。しかしながら、農家民泊事業の導入に消極的な住民が多く存在し、同事業が円滑に進まないケースもみられる。そこで、農家民泊事業の導入前に農家が同事業にいかなる意識を持っているのかについて分析する必要がある。

本稿で取り上げる小山市は、栃木県南部地域の中心都市の1つであり、鉄道交通や道路交通の結節点としての機能を有している。2005年に閉園した小山ゆうえんちを除くと、同市には知名度が高い観光資源が立地していなかったため、観光客向けの宿泊施設が未整備であるなど、観光地域としての基盤を有していない。

一方で、2010年11月16日に本場結城紬がユネスコ無形文化遺産に登録されたことから、2016年におやま本場結城紬クラフト館が小山駅前に開設されるなど、観光客などへのPR活動が積極的に行われるようになった。また、2012年7月3日に渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地に登録されたことにより、第2調節池に隣接する生井地区では、ふゆみずたんぼ米の生産、水田を活用したホンモロコの養殖などが行われるようになり、これらの関連商品が道の駅思川で販売されるなど観光客の目に触れる機会も増えてきている。さらに、渡良瀬遊水地を対象としたガイドの育成や地域に伝承される民謡「生井桑摘み唄」の披露などが行われている。このように、小山市では、農村地域の活性化を目的としてさまざまな取り組みが行われており、これをまとめる試みとして、農家民泊事業の導入について議論がなされている。

以上を踏まえて、本研究の目的は、小山市の住民を対象として、農家民泊事業導入に関する住民意識を分析し、その差異が生じた要因を明らかにした上で、小山市における農家民泊事業導入の可能性を考察することである。

2. データ

小山市では渡良瀬遊水地と本場結城紬が地域振興の重要な柱となっている（大久保 2016）。農家民泊事業の導入を検討する場合、これらに関連する農家などの活用が必要となると考えられる。そこで、本稿では、渡良瀬遊水地に隣接し、稲作と麦作の二毛作が盛んな農村集落である①生井地区の住民と、小山市内に立地する②養蚕農家および③本場結城紬の生産者を対象として、農家民泊事業の導入前に住民が観光振興や農家民泊事業にどのような意識を持っているのかについてアンケート調査を行った。

アンケート調査は2017年2～3月に配布式もしくは対面式で行った。生井地区の住民38名、養蚕農家6名、本場結城紬の生産者16名から回答があった。まず、これらの住民から小山市の魅力および自慢したい観光資源や特産物は何か、また小山市をどのように盛り上げたらよいかについて

尋ねた。加えて、生井地区の住民を対象として、渡良瀬遊水地および生井地区をどのように活性化させればよいかについて調査した。つぎに、回答者全員を対象として、農家民泊事業の導入時ににおける宿泊客の受け入れの可否を尋ね、宿泊客の受け入れに前向きな住民には宿泊客を受け入れたい理由、どのような客層を受け入れたいか、受け入れに際してどのようなことが不安であるかについて質問した。一方、宿泊客の受け入れに積極的でない住民には、受け入れたくない理由を尋ねた。また、体験プログラムが提供できるかについても調査した。

なお、生井地区住民のなかには、各地区の自治会長、下生井小学校 PTA の役員、各種地域組織（渡良瀬遊水地関連地域活性化協議会、渡良瀬遊水地第二調節池周辺地区治水事業促進連絡協議会、生井桜つつみ桜の里親協議会、小山市生井地区ラムサール資源を活用した交流促進協議会、生井桑摘み唄保存会、あんずっ子サマーフェスタ実行委員会など）に所属する住民をはじめ、地域活動に積極的な回答者が多く含まれている。

II. 小山市における地域資源と観光振興に関する住民意識からみた農家民泊事業の有用性

1. 小山市における地域資源と観光振興に関する住民意識

1) 小山市における地域資源に関する住民意識

表 1 は生井地区の住民、養蚕農家、本場結城紬の生産者を対象として、小山市の魅力、自慢したい観光資源や特産品としてどのようなものがあるかを尋ね、その回答文に含まれていたキーワードを示したものである。これらのキーワードは、a) 渡良瀬遊水地関連、b) 自然環境関連、c) 特産品関連、d) その他に大別することができる。以下では、それぞれの特徴について述べる。

a) 渡良瀬遊水地関連 渡良瀬遊水地関連のキーワードは 41 個であった。最も多かった回答が「渡良瀬遊水地」(14 個) であり、次いで「生井桜つつみ」(12 個)、「夕日」(5 個)、「ヨシ焼き」(4 個)、「ヨシ」(3 個)、「朝日」「なまいふるさと公園」「ヨシ舟」(それぞれ 1 個) であった。渡良瀬遊水地第 2 調節池は小山市を象徴する地域資源の 1 つであるが、「ヨシ焼き」を除くと、集客力が低く、観光客の滞在時間が短いと考えられる観光資源がほとんどを占めていたことが指摘できる。

b) 自然環境関連 自然環境関連のキーワードは 59 個で最も多い。なかでも、小山市でみられる地域外の山岳景観が多くみられることが指摘できる。具体的には、「富士山」が最も多く (13 個)、次いで「筑波山」(3 個)、「浅間山」「日光連山」「男体山」(それぞれ 2 個)、「赤城山」「那須連山」(それぞれ 1 個) があげられた。また、「桜」(6 個) や「菜の花」(3 個)、「アンズの花」(1 個) など季節限定のものや、市内でも滅多にみることができない「コウノトリ」(1 個) も含まれていた。

表 1 小山市の魅力、自慢したい観光資源や特産品に関する住民意識（2017 年）

分類	キーワード	出現回数	分類	キーワード	出現回数
a) 渡良瀬遊水地関連	渡良瀬遊水地	14	c) 農産物や特産品関連	結城紬	8
	生井桜づつみ	12		米・生井っ子	6
	夕日	5		イチゴ	4
	ヨシ焼き	4		干瓢	3
	ヨシ	3		小山和牛・牛肉	2
	朝日	1		ヨシズ	2
	生井ふるさと公園	1		アユ	2
	ヨシ舟	1		ビール麦	2
b) 自然環境関連	富士山	13		農作物	1
	自然	8		そば	1
	桜	6		酒	1
	絶景・景色	3		間々田紐	1
	菜の花	3		小麦	1
	筑波山	3		食材	1
	旧思川	2		養蚕	1
	浅間山	2		うどん	1
	日光連山	2	d) その他	おやま思川ざくらマラソン	1
	男体山	2		祭り	1
	花	1		生井桑摘み唄	1
	植物	1		田んぼアート	1
	思川堤防	1		栃木ゴールデンブレース	1
	鬼怒川	1		サイクリングロード	1
	沼	1		高椅神社	1
	赤城山	1		寒川尼の墓	1
	那須連山	1			
	コウノトリ	1			
	生き物	1			
	動植物	1			
	田んぼ	1			
	アズの花	1			
	四季の移ろい	1			
	ツバメ	1			
	星空	1			

(小山市の住民へのアンケート調査により作成)

さらに、「自然」（8 個）、「花」「植物」「生き物」「動植物」「四季の移ろい」（それぞれ 1 個）など、具体的に何を指すのかがわかりにくいキーワードも存在した。

c) 農産物や特産品関連 農産物や特産品関連のキーワードでは、本場結城紬（8 個）が最も多かった。それ以外では食べ物が多く、「米・生井っ子」が 6 個、「イチゴ」が 4 個、「干瓢」が 3 個、「小山和牛・牛肉」「アユ」「ビール麦」が各 2 個であり、次いで「そば」「酒」「小麦」「うどん」（各 1 個）などがあげられた。このほか、「ヨシズ」（2 個）、「間々田紐」「養蚕」（各 1 個）が回答された。

d) その他 その他に分類した地域資源として、「おやま思川ざくらマラソン」「祭り」「生井桑摘み唄」「田んぼアート」「栃木ゴールデンブレース」「サイクリングロード」「高椅神社」「寒川尼の墓」（それぞれ 1 個）があげられた。

2) 小山市の観光振興に関する住民意識

表2は生井地区の住民、養蚕農家、本場結城紬の生産者をどのように観光で盛り上げたらよいかを尋ね、その回答文に含まれていたキーワードを示したものである。

その傾向をみると、第1にマスメディアやソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）などによる情報発信が最も多かったことが指摘できる。例えば、「テレビによる情報発信」が7個、「SNSによる情報発信」が4個、「雑誌・旅行雑誌への掲載」が3個、「ガイドマップ・パンフレットへの掲載」「広報誌への掲載」「新聞への掲載」「マスコミを使ったPR」「小山市ホームページの充実」がそれぞれ1個であった。小山市には、全国的に有名な観光資源がほとんどみられないため、メディアによる情報発信を通じて同市の知名度を高めたいという意識が働いていると考えられる。

第2に、渡良瀬遊水地へのアクセスの改善が指摘できる。具体的には、「道路の整備」が3個、「バスの運行」「案内板の設置」「駐車場の整備」「交通手段の確保」がそれぞれ1個であった。2017年7月現在、周辺部の主要幹線道路（東京および東北方面と繋がる国道4号線と、そこから渡良瀬遊水地第2調節池までのアクセス道路である栃木県道174号線）沿いに渡良瀬遊水地を示した案内標識や案内看板もほとんどみられない。こうした現状を踏まえて、自動車交通による交通アクセスの改善を望む意見があげられたといえる。

第3の傾向として、地元住民を担い手とした体験・交流型観光の導入が指摘できる。例えば、「イベントの開催」（3個）、「農家民泊の実施」「生井桑摘み唄の活用」「体験型観光プログラムの作成」（それぞれ1個）があげられ、これらの回答者は地域全体で観光客と地域住民との交流を望んでいると考えられる。こうした傾向は、「住民によるおもてなしの向上」（2個）という回答からもみてとれる。

3) 渡良瀬遊水地や生井地区の観光振興に関する住民意識

表3は、生井地区の住民を対象として、渡良瀬遊水地と隣接する生井地区においてどのように観光で盛り上げたらよいかについて尋ね、その回答文に含まれていたキーワードを示したものである。

キーワードの傾向として、第1に体験・交流型観光の導入が指摘できる。例えば、「イベントの実施」が5回、「ガイド・ツアーの整備」が3回、「夜中の動物探し」「地元高齢者との交流」「体験観光の整備」がそれぞれ1回であった。また、「廃校の活用」という回答が2回出現したが、これは廃校する小学校の交流施設への転用を期待していることが関係している。さらに、「人的組織の立ち上げ」という回答があったが、これは体験・交流型観光や交流施設を運営するための組織の必要性を感じているためであろう。

第2の傾向として、観光客の滞在拠点もしくは立寄り先となる観光関連施設をはじめとするハードの整備が指摘できる。「飲食店（農家レストラン等）の整備」が4回、「宿泊施設の整備」と「道

表2 小山市の観光振興に関する住民意識（2017 年）

キーワード	出現回数	キーワード	出現回数
テレビによる情報発信	7	休耕田の活用	1
SNSによる情報発信	4	水質改善	1
雑誌・旅行雑誌への掲載	3	広報誌への掲載	1
道路の整備	3	バスの運行	1
イベントの開催	3	農家民泊の実施	1
住民によるおもてなし向上	2	案内板の設置	1
ツアー商品の作成	2	マスコミを使ったPR	1
アンテナショップ	1	駐車場の整備	1
他市町村との連携	1	公共施設でのPR	1
小山市ホームページの充実	1	スポーツ選手記念館の開設	1
ガイドマップ・パンフレットへの掲載	1	生井桑摘み唄の活用	1
駅前商店街を盛り上げる	1	旧思川の整備	1
新聞への掲載	1	体験型観光プログラムの作成	1
新たな観光資源の発掘	1	交通手段の確保	1
環境保全	1	ベンチの設置	1

(小山市の住民へのアンケート調査により作成)

表3 渡良瀬遊水地および生井地区の観光振興に関する住民意識（2017 年）

キーワード	出現回数	キーワード	出現回数
イベントの実施	5	人的組織の立ち上げ	1
住民の意識改革・住民協力	5	熱気球体験	1
飲食店(農家レストラン等)の整備	4	舟の運行	1
パンフレットの作成・配布	4	大型バス用道路の整備	1
ガイド・ツアー作成	3	土産物店の整備	1
宿泊施設の整備	3	パワースポット化	1
道路の整備	3	ウォークラリー	1
直売所の開設	2	夜中の動物さがし	1
廃校の利用	2	地元高齢者との交流	1
散策道の整備	2	体験観光の整備	1
		水質の浄化	1

(生井地区の住民へのアンケート調査により作成)

路の整備」がそれぞれ3回、「直売所の開設」と「散策道の整備」がそれぞれ2回、「大型バス用道路の整備」「土産物店の開設」（それぞれ1回）があげられた。

2. 住民意識からみた農家民泊事業の有用性

これまでのアンケート結果の傾向として、主に①回答者が渡良瀬遊水地を重要な地域資源として捉えていること、②市内の農産物や特産品に誇りを持っていること、③メディアによる情報発信が

必要であること、④渡良瀬遊水地への交通アクセスに課題を抱えていること、⑤体験・交流型観光の導入を期待していることが指摘できるが、本稿で取り上げる農家民泊事業はこうした期待に応える観光振興の形態の1つであると考えられる。

①・②・⑤についていえば、農家民泊事業は体験・交流型観光の1つに位置づけられ、農家宿泊体験と、渡良瀬遊水地での自然体験や農業体験、特産品の製造現場の見学などの体験プログラムにより地元住民と観光客との交流が期待できる。また、③との関連でみると、農家民泊事業はテレビや新聞などのマスメディアに好意的に取り上げられたり、修学旅行や体験学習で宿泊した生徒が写真や感想などをSNSに投稿したりするなど、多方面への情報発信も期待できる。さらに、④についていえば、農家民泊事業では一般的に受け入れ農家が自家用車で送迎を行うケースが多いため、二次交通が不便である渡良瀬遊水地周辺地域では同事業が有効であると考えられる。

Ⅲ. 小山市における農家民泊事業の導入に関する住民意識

本章では、農家民泊事業を導入する際に、生井地区の住民、養蚕農家、本場結城紬の生産者が宿泊客および体験プログラムの受け入れに関していかなる意識を持っているかについて分析する。

1. 宿泊客の受け入れに関する住民意識

1) 宿泊客の受け入れの可否

図1は、生井地区の住民、養蚕農家、本場結城紬の生産者を対象に、宿泊客の受け入れの可否を示したものである。生井地区の住民についてみると、「あまり受け入れたくない」と「受け入れたくない」が合わせて50%であったものの、「ぜひ受け入れてみたい」と「機会があったら受け入れてみたい」が合計24%を占めており、養蚕農家や本場結城紬の生産者に比べると肯定的な意見がみられた。加えて、「どちらともいえない」が26%を占めており、将来これらの回答者も農家民泊事業に関心を示す可能性がある。

一方、養蚕農家では、「受け入れたくない」と「あまり受け入れたくない」が83%を占めており、「機会があったら受け入れてみたい」と回答した養蚕農家は1軒（17%）にとどまった。同様に、本場結城紬の生産者についてみると、「受け入れたくない」が75%、「あまり受け入れたくない」が25%であった。このように、養蚕農家と本場結城紬の生産者は、宿泊客の受け入れについて消極的な姿勢を示している。

2) 宿泊客の受け入れが可能な住民の特徴

図1で「ぜひ受け入れてみたい」と「機会があったら受け入れてみたい」と選択した回答者（生井地区の住民9名、養蚕農家1名の計10名）を対象として、a)受け入れをしてみたい理由、b)受

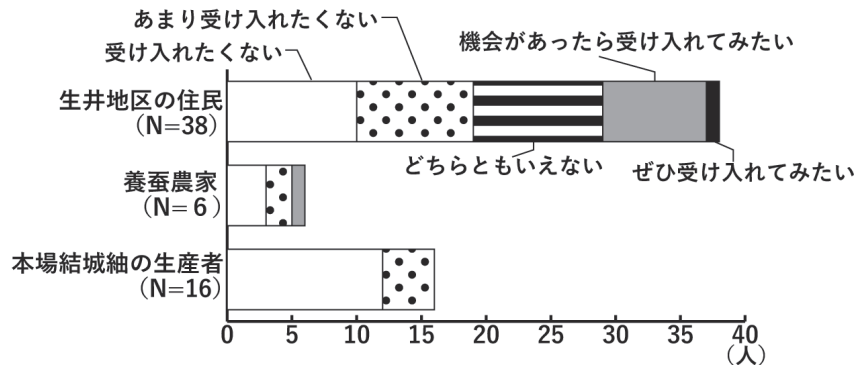


図1 宿泊客の受け入れの可否（2017年）
（小山市の住民へのアンケート調査により作成）

け入れ可能な客層、c)受け入れ時の不安な点の3点を複数回答可で尋ねた。

a) 受け入れてみたい理由 まず、受け入れてみたい理由についてみると、「宿泊客と交流したいから」と「小山と生井を好きになる人を増やしたいから」がそれぞれ回答者の50%、「人の役に立ちたいから」と「人の世話が好きだから」がそれぞれ20%、「小山と養蚕の歴史を教えたいから」が10%を占めており、宿泊客との新たな人間関係の構築や郷土愛が農家民泊事業に対する関心へと繋がっていると考えられる。このほか、「生き甲斐になるから」「地域住民と協力して何かに取り組みたいから」「空き家があるから」がそれぞれ10%であった。

b) 受け入れ可能な客層 つぎに、受け入れ可能な客層について分析すると、「日本人の修学旅行生」と「日本人の家族連れ」が回答者の70%を占めており、次いで「日本人の高齢者夫婦」は60%であった。一方で、「外国人生徒・学生」や「外国人の一般観光客」はそれぞれ40%、30%にとどまっていた。外国人の受け入れに消極的な理由として、農村地域では外国人と触れ合う機会が少ないことや外国語の運用能力に不安があることなどが考えられる。

c) 受け入れ時の不安な点 最後に、宿泊客を受け入れる際に不安な点についてみると、「食事の提供」が最も多く（30%）、次いで「宿泊客の騒音とマナー」「布団購入などの備品の費用」「ペットがいる」がそれぞれ20%、「風呂の提供」「体力的に心配」「部屋が狭い」「外国語の習得」「酒乱は困る」「若干のリニューアルが必要」がそれぞれ10%であった。一方で、「不安がない」の回答者（10%）も存在した。

2. 体験プログラムの受け入れに関する住民意識

次に、生井地区の住民（38名）、養蚕農家（6名）、本場結城紬の生産者（16名）がどのような体験プログラムを提供できるかについて分析をする（複数回答可）。

生井地区の住民をみると、「なし（対応不可能）」が最も多かったが（37%）、次いで「生井地区の

案内」が34%、「渡良瀬遊水地の案内」が26%、「田植え体験」が21%、「稲刈り体験」と「畑の収穫」がそれぞれ18%、「小山市への観光の同行」と「周辺市町村への観光の同行」が16%、「畑の種まき」と「生井地区の歴史に関する説明」が11%を占めていた。さらに、「ヨシズづくり」(8%)、「バードウォッチング」、「生井桑摘み唄の指導」(それぞれ5%)、「料理教室」、「魚釣り」、「昔の遊び」、「餅つき」、「新鮮な食材の料理提供」、「バーベキュー」、「和太鼓体験」、「菜の花・ヨモギ・桑の実摘み」(以上、3%)などの個性的な体験プログラムが提案された。

一方、養蚕農家と本場結城紬生産者についてみると、それぞれの産業を活かした体験プログラムの提供が可能である傾向がみられた。養蚕農家では、「養蚕業の建物見学」が最も多く(83%)、次いで「小山の養蚕に関する説明」が50%、「田植え体験」「カイコ飼育の見学」「繭出荷の見学」がそれぞれ33%、「繭収穫の見学」が17%であり、「なし(対応不可能)」は1軒にとどまっていた(17%)。また、本場結城紬の生産者についてみると、「なし(対応不可能)」が最も多かったが(67%)、「織物業等の建物や作業場の見学」が19%、「本場結城紬の歴史や作業工程に関する説明」が13%、「田植え体験」と「畑の収穫」が6%であった。

IV. 小山市における農家民泊事業の導入に関する住民意識に差異がみられた要因

これまでみてきたように、生井地区の住民、養蚕農家、本場結城紬の生産者の3者には、宿泊客の受け入れに意識の差異がみられた。こうした差異は、それぞれの産業の特徴が関係すると考えられる。

表4は、宿泊客を受け入れたいかという設問(図1)で「どちらともいえない」「あまり受け入れたくない」「受け入れたくない」と回答した住民(生井地区の住民29名、養蚕農家5軒、本場結城紬の生産者16名)を対象として、宿泊客を受け入れたくない理由を尋ねたものである。これによると、生井地区の住民は「食事の準備が大変」と「布団などの備品が足りない」がそれぞれ48%、「部屋がない」が45%であり、部屋や備品などの物理的な問題、食事の手間などがネックになったと考えられる。ただし、稲作農家は機械化が進んでいることや自給用野菜の栽培が多いことから、「本業に影響が出る」は7%にすぎない。そのため、物理的な問題などが解決できれば、宿泊客の受け入れが拡大する可能性がある。

一方、養蚕農家では、「本業に影響が出る」が80%を占めている。カイコはウィルスや細菌などによる伝染病、昆虫やダニなどによる寄生虫病、タバコや農薬などによる中毒症に弱い。とくに、ウィルス病は人間によって持ち込まれ、重大な被害をもたらすと考えられる。例えば、養蚕農家の回答者の1人は、施設などで来訪者が視察などで訪れる際には、消毒用の石灰水に靴を浸すように促し、カイコの飼育現場に招き入れている。このように、養蚕農家では、宿泊客の受け入れが進展

表4 宿泊客を受け入れたくない理由（2017年）

内容	生井地区住民 (N=29)		養蚕農家 (N=5)		結城紬生産者 (N=16)	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
部屋がない	13	45	2	40	6	38
食事の準備が大変	14	48	2	40	4	25
布団などの備品が足りない	14	48	1	20	3	19
初対面の人を泊めることに抵抗がある	8	28	1	20	3	19
体力が心配	8	28	0	0	4	25
自宅が片付いていない	8	28	0	0	1	6
本業に影響が出る	2	7	4	80	3	19
お風呂の提供	4	14	1	20	1	6
人見知りで会話が苦手	2	7	1	20	1	6
宿泊客の騒音とマナー	2	7	0	0	2	13
ペットがいる	3	10	0	0	0	0
家族に病人がいる	1	3	1	20	0	0
孫が多い	1	3	0	0	0	0
1人で面倒みきれない	1	3	0	0	0	0
全員働いているから	1	3	0	0	0	0
家族が反対している	1	3	0	0	0	0
同居の家族と相談	1	3	0	0	0	0
あまり興味がない	1	3	0	0	0	0
収入源として魅力がない	0	0	0	0	0	0
子どもや孫が小さい	0	0	0	0	0	0
その他未記入	2	7	0	0	4	25

【複数回答可】

(小山市の住民へのアンケート調査により作成)

しにくいと考えられる。ただし、先述のように、養蚕農家は、養蚕業の建物見学、小山の養蚕に関する説明、カイコ飼育の見学、繭出荷の見学など体験プログラムの場として発展する可能性がある。

また、本場結城紬の生産者についてみると、「部屋がない」が最も多いが(38%)、「体力が心配」と「食事の準備が大変」が25%、「本業に影響が出る」が19%を占めていた。本場結城紬は、現在でもすべて手作業で作られている。そのため、本場結城紬の生産者は、本業との両立、体力や食事の準備などに不安に感じていると考えられる。しかしながら、前述のように、織物業等の建物や作業場の見学、本場結城紬の歴史や作業工程に関する説明など、本場結城紬をテーマとした体験プログラムが提供される可能性があると推測できる。

V. 小山市における住民意識からみた農家民泊事業導入の可能性

ここでは、まずこれまでの住民意識の分析を踏まえて、小山市における農家民泊事業導入の可能性について考察する（図2）。

生井地区には、宿泊客の受け入れに積極的な農家が含まれており、彼らが農家民泊事業のリーダー的存在になることにより、円滑に農家民泊事業の導入を図れる可能性がある。一方で、生井地区の住民全体からみると、同事業に消極的な住民も多くみられるため、農家民泊の受け入れ農家が十分確保できるとはいいがたく、事業の開始当初にはモニターツアーなどの少人数グループの受け入れに限定され则认为られる。日本の農家民泊における主たる客層は、一般的に修学旅行や宿泊学習などで訪れる小中高の生徒が主体となっているケースが多いため（柳ほか2015）、本格的に農家民泊事業を導入する場合、分宿で数百名が収容できるように受け入れ農家の確保が必要となる。例えば、200名の修学旅行生が農家民泊を利用する場合、農家1軒あたり受け入れ人数が4名であると仮定すると、50軒程度の受け入れ農家を確保しなければならない。そこで、今後、周辺住民に農家民泊事業への協力依頼と説得を続けながら、受け入れ農家を増やしていくことが必要であろう。

一方で、生井地区の住民が田植えや稲刈りなどの農業体験や渡良瀬遊水地の自然学習などの個性的な体験プログラムを、養蚕農家や本場結城紬の生産者がそれぞれの産業に関わる学習観光の体験プログラムを提供できる可能性がある。また、体験プログラムの合間や雨天時に受け入れ農家が小山評定跡、須賀神社、間々田八幡宮、小山市立博物館、おやま本場結城紬クラフト館、紬織物技術支援センターなど、大手旅行会社のパッケージツアーの訪問地になりにくい市内のローカルな観光資源に立ち寄る機会が増える则认为られる。さらに、立ち寄り先の1つとして、旧下野煉化製造会社煉瓦窯（野木町）をはじめ周辺市町村の観光資源を加えることも可能であろう。なお、農家民泊事業を実施している地域では、一般的に宿泊客は受け入れ農家の自家用車で体験プログラムの実施場所や市内外の観光資源まで移動する。そのため、二次交通の確保に問題を抱える小山市においても、宿泊客の行動範囲に制約が少なくて済むと认为られる。

つぎに、農家民泊事業の導入に向けた課題について述べる。第1に、小山市が観光地域としての基盤を有しておらず、農家民泊事業に対する需要が不透明であることが指摘できる。前述のように、小山市や周辺市町村には全国的もしくは首都圏レベルで著名な観光資源が立地していないため、修学旅行生をはじめ観光客が多く訪れる観光ルート上に位置していない。また、首都圏外縁部に位置する小山市は、かつて養蚕業で栄えたが、現在では稲作をはじめ首都圏を支える食糧生産の場として機能しており、北関東に位置する他の農村地域と類似した農村景観を形成している。そのため、首都圏に住む観光客が農村景観や特産品などについて見慣れた光景であると捉え、観光対象としての魅力が乏しいと感じる可能性がある。農家民泊事業を導入する場合、地元の生徒・学生などによ

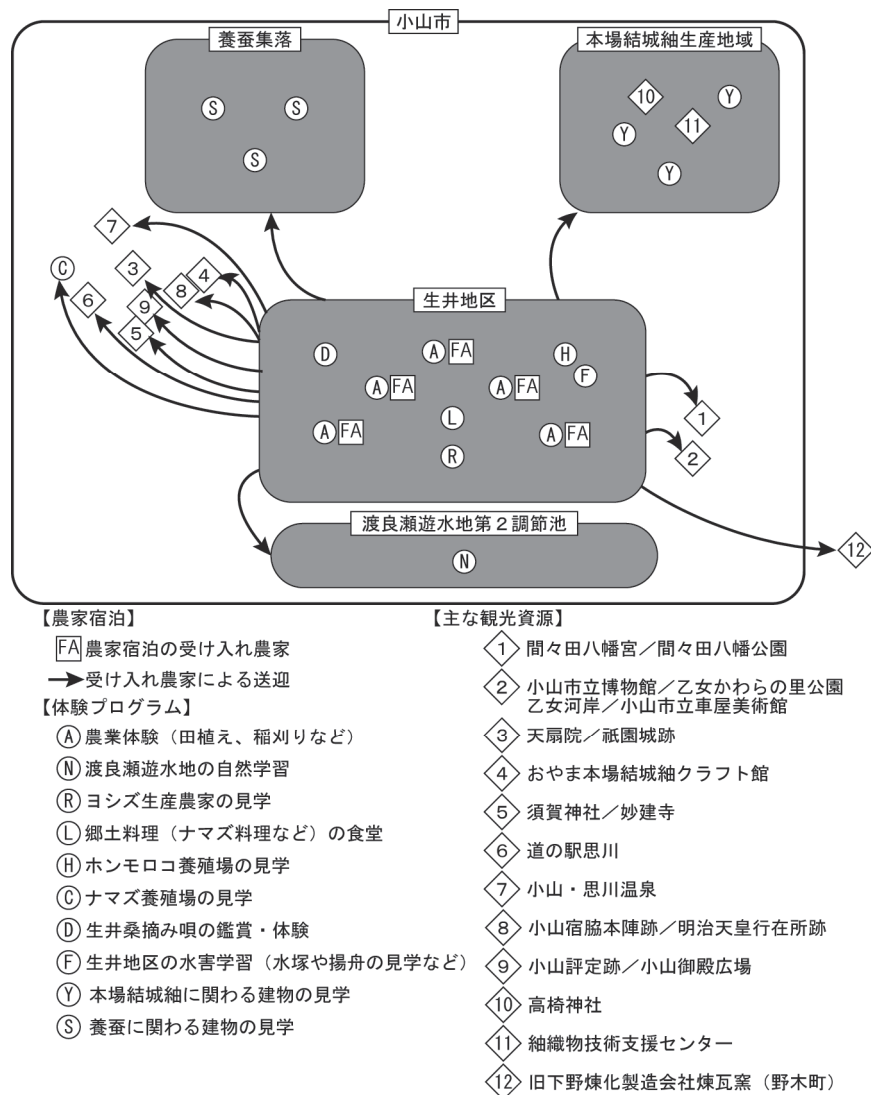


図2 小山市における農家民泊事業導入の可能性（2017年）

（筆者作成）

るモニターツアーの実施、テレビや新聞をはじめとするマスメディアを使った積極的な情報発信、小中学校や高校へのセールス活動などが必要であろう。また、農家民泊事業の魅力を高めるための工夫として、個性的な農作物の栽培や家畜の飼育など特徴的な農業を行うことや、農家の個性的な趣味や特技を活かすことがあげられる¹⁾。小山市の渡良瀬遊水地第2調節池周辺では、ヨシズ生産農家が残存していたり、ホンモロコやナマズの養殖農家が出現したりしているが、今後もこうした取り組みを増やすことにより多様な農業体験の提供が可能になるだろう。

第2の課題として、農家民泊事業を円滑に遂行するために、いかにして同事業を運営する組織を立ち上げるかがあげられる。農家民泊事業を実施している地域では、自治体の協力を得ながら、地元の観光協会やNPO法人、ベンチャー企業などが農家民泊事業を実施しているケースがみられる。

これらの業務として、農家宿泊や体験プログラムの受付や受け入れ農家の手配、宣伝媒体の作成、地域外の学校などへのセールス活動、ホームページの管理、来客者による視察の対応、常連の団体への挨拶などがある。また、農家民泊の受け入れ時には、これらの組織が開会式（入村式）や閉会式（離村式）の立ち会い、各受け入れ農家への見回り、緊急時（修学旅行生の急病やケガなど）の対応などの業務を担当する。受け入れ農家は高齢者世帯が主体となることが想定されるため、作業量や体力、パソコンスキルなどを考慮すると、受け入れ農家がこれらの業務をすべて兼務することは困難であると考えられる。そのため、新たに運営組織を立ち上げるか、すでに存在する組織に業務を委託する必要があるだろう。

第3の課題として、いかにして農家民泊事業の初期費用を捻出していくかが指摘できる。導入時には、同事業の運営組織はスタッフの人件費や事務所の賃料、自動車や什器類の購入費、パンフレットやホームページの製作費など、さまざまな費用が必要となる。一方、農家宿泊の受け入れ農家は、送迎用のワゴン車や防火設備（火災報知器や消火器など）、什器類（テーブル、椅子、食器など）、寝具、レクリエーション用品などを購入しなければならない。ただし、農家民泊事業はリゾート開発のようなハード偏重の観光開発に比べ初期費用が少なく済むと考えられる。そのため、自治体が農家民泊事業の運営組織や受け入れ農家に対して補助金を設定したり、備品の貸出をしたりするなど、可能な限り農家民泊事業の新規参入をしやすい環境を整えていくことが必要であろう。

最後に、第4の課題として、いかにして農家民泊事業の持続可能性を確保していくかがあげられる。非高齢者の夫婦が存在する農家では、兼業の農外就業や子育てなどで時間的・経済的な余裕のなさから、農家民泊事業に消極的な傾向がみられる。一方、高齢者夫婦の世帯は、非高齢者がいる世帯に比べ時間的・経済的な余裕があると考えられるため、宿泊客との交流を期待して農家宿泊の受け入れ農家の中心的な存在になることが想定される²⁾。高齢者が主たる担い手となる場合、農家民泊事業をいかに持続させていくか、またいかにして非高齢者がいる世帯に拡大していくかが課題となるだろう。

VI. おわりに

本稿では、生井地区の住民、養蚕農家、本場結城紬の生産者を対象として、農家民泊事業導入に関する住民意識を分析し、その差異が生じた要因を明らかにした上で、小山市における農家民泊事業導入の可能性を考察してきた。その結果は、以下のようにまとめることができる。

(1) 生井地区では、農家民泊事業の導入に際して宿泊客の受け入れに消極的な意見が半数を占めていたが、肯定的意見を持つ住民も1/4程度占めていた。加えて、「どちらでもない」という中立的な意見を持つ住民も同程度存在しており、農家民泊事業の進展次第ではこれらの回答者も宿泊客の受け入れに関心を示す可能性がある。一方、養蚕農家と本場結城紬の生産者についてみると、大

半が宿泊客の受け入れに否定的な意見を有していた。

(2) 体験プログラムに対する住民意識についてみると、生井地区の住民の回答には、市内外への観光の同行や農業体験の実施などが多かった。このほか、ヨシズづくり、バードウォッチング、生井桑摘み唄の指導、料理教室、和太鼓体験などの個性的な体験プログラムが提案された。一方、養蚕農家や本場結城紬の生産者は、それぞれの産業を活かした体験プログラムの提供について提案する傾向にあった。

(3) 宿泊客を受け入れたくない生井地区の住民は、部屋や備品などの物理的な問題、食事の手間などについて不安に感じていると考えられる。ただし、こうした問題が解決できれば、宿泊客の受け入れを希望する農家が拡大する可能性もある。一方、養蚕農家は、カイコが伝染病や寄生虫病、タバコや農薬などによる中毒症に弱いため、外部者が常時出入りすることに不安を抱えており、宿泊客の受け入れが進展しにくいと考えられる。同様に、本場結城紬はすべて手作業で作られているため、その生産者は本業との両立、体力や食事の準備などに不安に感じている。

(4) 生井地区には、宿泊客の受け入れに積極的な農家が含まれており、彼らが農家民泊事業のリーダー的存在になることにより、円滑に農家民泊事業の導入を図れる可能性がある。しかしながら、生井地区の住民全体からみると、同事業に消極的な住民も多くみられる。今後、周辺住民に農家民泊事業への協力依頼と説得を続けながら、受け入れ農家を増やしていくことが必要である。

(5) 生井地区の住民は農業体験や渡良瀬遊水地の自然学習など個性的な体験プログラムを、養蚕農家や本場結城紬の生産者はそれぞれの産業に関わる学習観光の体験プログラムを提供できる可能性がある。さらに、農家民泊事業を導入することにより、受け入れ農家が大手旅行会社のパッケージツアーになりにくい市内のローカルな観光資源を案内する機会が増えると考えられる。

(6) 小山市における農家民泊事業の導入に向けた課題として、①小山市が観光地域としての基盤を有しておらず、農家民泊事業に対する需要が不透明であること、②いかにして同事業を運営する組織を立ち上げるか、③いかにして農家民泊事業の初期費用を確保していくか、④いかにして農家民泊事業の持続性を確保していくかなどが指摘できる。

謝辞

本稿は、「平成 28 年度小山市渡良瀬遊水地及び生井地区の地域資源を活用した観光誘客調査委託業務」（受託先：JTB 関東法人営業小山支店）、「平成 28 年度小山市渡良瀬遊水地の観光地化業務委託」（受託先：宇都宮大学、研究者代表：鈴木富之）、「平成 29 年度小山市渡良瀬遊水地地域デザイン作成に関する研究業務委託」（受託先：宇都宮大学、研究者代表：鈴木富之）の成果の一部を公表したものである。

生井地区住民、養蚕農家、本場結城紬生産者の方々、栃木県本場結城紬織物協同組合、JA おや

ま宮農部米麦課の橋本直也氏、小山市総合政策課他関係課には、多大なご協力をいただきました。また、「渡良瀬遊水地・本場結城紬」を活用した観光資源アンケート結果についての意見交換会(2017年3月21日、於・小山市役所)において、出席者の皆様に貴重なご意見をいただきました。ここで厚くお礼申し上げます。

注

- 1) 例えば、大田原市の農家民泊事業では、稲作農家に加え、畜産農家やトウガラシ農家、アスパラガス栽培農家などが重要な構成要素の1つとなっており、多種類の農業体験が実施されている。
- 2) 宿泊客の受け入れの可否を尋ねた図1で「ぜひ受け入れてみたい」と「機会があったら受け入れてみたい」と選択した回答者(10名)の家族では、世帯主がいずれも60代以上であった。そのうち、世帯構成員がすべて60代以上である回答者は7名を占めている。

参考文献

- 大久保寿夫2016. 観光まちづくりと小山市の魅力. 新都市70(8): 23-26.
- 加藤 愛・細野賢治・山尾政博2015. 体験型教育民泊による地域への効果と受入組織運営のあり方 — (一社)伊江島観光協会を事例として. 農業経済研究87: 279-284.
- 呉羽正昭2011. 観光地理学研究. 江口信清・藤巻正己編『観光研究レファレンスデータベース: 日本編』ナカニシヤ出版11-20.
- 米浪信男2008. 『現代観光のダイナミズム』同文館出版.
- 柳 銀珠・鈴木富之・朴 在徳2015. 大宜味村における観光事業の取り組みの現状と課題—体験・交流型観光を中心として. 第30回日本観光研究学会全国大会学術論文集161-164.

「渡良瀬遊水地・本場結城紬」を活用した観光資源アンケート

生井地区用

問１．あなたのお名前と住所をお教えてください。

回答者のお名前	()
回答者住所	(小山市)

問２．家族構成（同居家族のみ）をお教え下さい。

	回答者との関係	年齢	性別	職業	地域との関わり
1	本人				
2					
3					
4					
5					
6					
7					

回答例) 妻 63 女 農業(稲作) おやま〇〇〇委員会委員, 〇〇保存会会員

問３．小山市の魅力、観光客に自慢（紹介）したい観光資源や特産品についてお教え下さい。また、その理由についてもお教え下さい。【できる限りたくさん書いて下さい】

例) 渡良瀬遊水地の夕陽 これだけきれいな夕陽は都会では見られない！

問４．今後、どのようにして小山市の観光を活性化させればよいと思いますか。あなたの考えをお教え下さい。

例) 旅行雑誌やテレビなどに取り上げてもらう

問５．渡良瀬遊水地や生井地区の観光振興をはかるためには、何をすればよいと思いますか。

例) 渡良瀬遊水地の自然ガイドツアーを行う、生井地区の歴史散策ツアーを行う

「渡良瀬遊水地・本場結城紬」を活用した観光資源アンケート

養蚕業用

問１．あなたのお名前と住所をお教え下さい。

回答者のお名前	()
回答者住所	(小山市)

問２．家族構成（同居家族のみ）をお教え下さい。

	回答者との関係	年齢	性別	職業	地域との関わり
1	本人				
2					
3					
4					
5					
6					
7					

回答例) 妻 63 女 農業(稲作) おやま〇〇〇委員会委員, 〇〇保存会会員

問３．小山市の魅力、観光客に自慢（紹介）したい観光資源や特産品についてお教え下さい。また、その理由についてもお教え下さい。【できる限りたくさん書いて下さい】

例) 渡良瀬遊水地の夕陽 これだけきれいな夕陽は都会では見られない！

問４．今後、どのようにして小山市の観光を活性化させればよいと思いますか。あなたの考えをお教え下さい。

例) 旅行雑誌やテレビなどに取り上げてもらう

問５．養蚕業を活かして地域振興や観光振興をはかるためには、何をすればよいと思いますか。

例) 養蚕業の見学ツアーを行う

問6. あなたやご家族（同居家族のみ）はどのような農作物を作っていますか？

農作物名	面積	用途	農作物名	面積	用途
		自給用・出荷用			自給用・出荷用
		自給用・出荷用			自給用・出荷用
回答例) 米	1ha	自給用・ <u>出荷用</u>			自給用・出荷用

問7. 体験・交流型の観光まちづくりを進める場合、あなたやあなたの家族は、修学旅行生（3～4名）などに、どのような農業体験などの日帰り体験プログラムを提供することが可能ですか？（ここでは、日帰り体験プログラムにより、観光客から体験料を徴収できることとします。）【複数回答可】

- ア. 田植え体験 イ. 稲刈り体験 ウ. 畑の種まき エ. 畑の収穫 オ. カイコ飼育の見学
 カ. 熟蚕と上簇の見学 キ. 繭収穫の見学 ク. 繭出荷の見学
 ケ. 養蚕業の建物見学 コ. 小山市内（道の駅や神社など）への観光の同行
 サ. 周辺市町村への観光の同行 シ. 料理教室 ス. 小山の養蚕に関する説明 セ. その他（ ）

問8. 修学旅行生（3～4名）などをあなたの家に宿泊させ、農業体験などをさせる「農家民泊」の受け入れをしてみたいと思いますか。（ここでは、農家民泊により、宿泊客から宿泊費を徴収できることとします。）

- ア. ぜひ受け入れてみたい イ. 機会があったら受け入れてみたい ウ. どちらともいえない
 エ. あまり受け入れたくない オ. 受け入れたくない

問9. 問8で「ア. ぜひ受け入れてみたい」「イ. 機会があったら受け入れてみたい」を選択した方に質問します。あなたが「農家民泊」を受け入れたい理由を教えてください。【複数回答可】

- ア. 収入になるから イ. 生き甲斐になるから ウ. 宿泊客と交流したいから エ. 小山や養蚕を好きになる人を増やしたいから オ. 地域住民と協力して何かに取り組みたいから
 カ. 人の役に立ちたいから キ. 人の世話が好きだから ク. 小山や養蚕の歴史を教えたいから
 ケ. その他（ ）

問10. 問8で「ア. ぜひ受け入れてみたい」「イ. 機会があったら受け入れてみたい」を選択した方に質問します。農家民泊を行う場合、あなたはどのような宿泊客を受け入れたいと思いますか。【複数回答可】

- ア. 日本人の修学旅行生（3～4名） イ. 日本人の家族連れ ウ. 日本人の高齢者夫婦
 エ. 外国人の生徒・学生 オ. 外国人の一般観光客

問11. 問8で「ア. ぜひ受け入れてみたい」「イ. 機会があったら受け入れてみたい」を選択した方に質問します。農家民泊を行う場合、あなたはどのようなことが不安ですか？【複数回答可】

- ア. 食事の提供 イ. お風呂の提供 ウ. 宿泊客の騒音とマナー エ. 布団購入などの備品の費用
 オ. 体力的に心配 カ. 部屋が狭い キ. 本業（養蚕業など）に影響が出る ク. 子どもや孫が小さい
 ケ. ペットがいる コ. 人見知りで会話が苦手 サ. 初対面の人を泊めることに抵抗がある
 シ. その他（ ）

問12. 問8で「ウ. どちらともいえない」「エ. あまり受け入れたくない」「オ. 受け入れたくない」を選択した方に質問します。あなたが農家民泊で宿泊客を受け入れたくない理由は何ですか。【複数回答可】

- ア. 収入源として魅力がない イ. 初対面の人を泊めることに抵抗がある ウ. 人見知りで会話が苦手
 エ. 自宅が片付いていない（物が多い） オ. 本業（養蚕業など）に影響が出る カ. 部屋がない
 キ. ペットがいる ク. こどもや孫が小さい ケ. 体力的に心配 コ. 宿泊客の騒音とマナー
 サ. 布団などの備品が足りない シ. 食事の準備が大変 ス. お風呂の提供 セ. その他（ ）

「渡良瀬遊水地・本場結城紬」を活用した観光資源アンケート

結城紬用

問１．あなたのお名前と住所をお教え下さい。

回答者のお名前	()
回答者住所	(小山市)

問２．家族構成（同居家族のみ）をお教え下さい。

	回答者との関係	年齢	性別	職業	地域との関わり
1	本人				
2					
3					
4					
5					
6					
7					

回答例) 妻 63 女 農業(稲作) おやま〇〇〇委員会委員, 〇〇保存会会員

問３．小山市の魅力、観光客に自慢（紹介）したい観光資源や特産品についてお教え下さい。また、その理由についてもお教え下さい。【できる限りたくさん書いて下さい】

例) 渡良瀬遊水地の夕陽 これだけきれいな夕陽は都会では見られない！

問４．今後、どのようにして小山市の観光を活性化させればよいと思いますか。あなたの考えをお教え下さい。

例) 旅行雑誌やテレビなどに取り上げてもらう

問５．結城紬や織物・染物業を活かして地域振興や観光振興をはかるためには、何をすればよいと思いますか。

例) 織物業者の作業の様子を見学できるようにする、織物業をめぐるツアーを行う

